

上手に使おう 横浜の水  
～健康と豊かな暮らしは 蛇口から～

“大切なひとのために”

横浜  
水缶

ピンクリボン  
かながわ

を応援します！

横浜市では、災害に備えて様々な自助・共助・公助の取組を進めています。特に、自助については、最も身近な災害対策として、日頃から市民の皆様「1人最低3日分で9リットル以上」の飲料水の備蓄をお願いしています。また、ご自宅での備蓄に加えて帰宅困難者対策として、企業や事業所での飲料水の備蓄についてもお願いしています。

一方、現在、日本では12人に1人の女性が乳がんになると言われ、年間1万3,000人の方が命を落としており、検診による早期発見・早期治療が非常に重要となっています。

そこで、横浜市と「ピンクリボンかながわ」がお互いの強みを生かして協力し、ご自身や大切な人の命を守るうえで重要な、災害に備えた飲料水の備蓄と乳がんの早期発見・早期治療の大切さについて、10月の乳がん月間を中心に広く社会へ呼びかけます。

### ☆横浜市の取組

- ・ 水道局が販売する備蓄飲料水「横浜水缶」やイベント等を通してPRすることで、日頃、がん検診に関心の薄い方に対して、検診の大切さを呼びかけます。
  - ピンクリボンのロゴを表記した備蓄飲料水「横浜水缶」「ピンクリボン缶」の製造、一般販売（6,000箱）
  - イベント等における乳がん検診啓発チラシやティッシュ等の配布

### ☆ピンクリボンかながわの取組

- ・ ピンクリボンかながわが持つ市内医療機関等とのつながりを生かし、市内医療機関やがん検診受診者等に対して、飲料水備蓄の大切さを呼びかけます。
  - ピンクリボンかながわの取組に賛同する全国健康保険協会加入の市内10医療機関及び神奈川県予防医学協会における飲料水備蓄啓発チラシの配布
  - 公益財団法人神奈川県予防医学協会が発行する月刊紙『健康かながわ』で飲料水備蓄についてPR

※ 「ピンクリボンかながわ」とは

乳がんと乳がん検診についての知識の普及啓発を図ることを目的として活動しており、公益財団法人神奈川県予防医学協会に事務局を置く団体です。

裏面あり

# 横浜水缶 ピンクリボン缶の販売

7年間保存できる備蓄飲料水「横浜水缶」にピンクリボンのロゴを表記したピンクリボン缶 6,000 箱の製造・一般販売を通じて、ピンクリボン活動を啓発します。  
(通常缶の完売後、平成 28 年 10 月中旬頃からピンクリボン缶の販売を開始し、6,000 箱を完売するまで販売します。)

**10月31日(月)注文分まで特典付き販売中!**

この機会に、ぜひご家庭や職場での飲料水備蓄にご利用ください。

## ◎3つの特典

- 特典1 キャンペーン期間中のご注文は**配達料無料!**
- 特典2 3箱購入ごとに**給水リュック1個**プレゼント!
- 特典3 10箱購入ごとに**横浜水缶を追加で1箱**プレゼント!

お得な  
キャンペーン中

## ◎キャンペーン期間

平成 28 年 9 月 1 日 (木) から 10 月 31 日 (月) ご注文分まで



## 備蓄飲料水「横浜水缶」の販売について

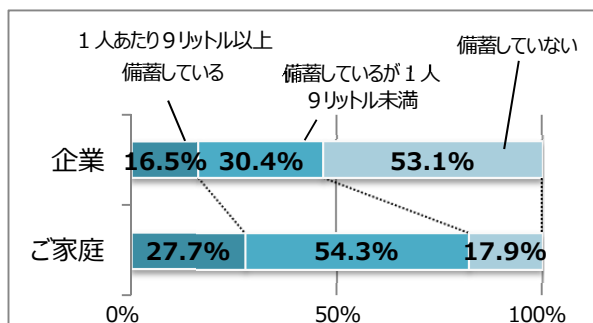
- 販売価格：横浜水缶 1箱 (500 ミリリットル缶 24 本入 計 12 リットル) 1,800 円 (税込)
- 賞味期限：製造日から 7 年間
- 配達先：横浜市内に限る
- 配達料：200 円 / 1 か所 (通常時)
- ご注文先：水道局お客さまサービスセンター (24 時間 365 日受付)

はちよんなな  
電話 045-847-6262 FAX 045-848-4281

## ◆災害用飲料水の備蓄状況

27 年度のヨコハマ e アンケートによると、備蓄の目安である「1人9リットル以上」備蓄している方は、ご家庭で 27.7%、企業で 16.5%にとどまっております、十分とは言えない状況です。

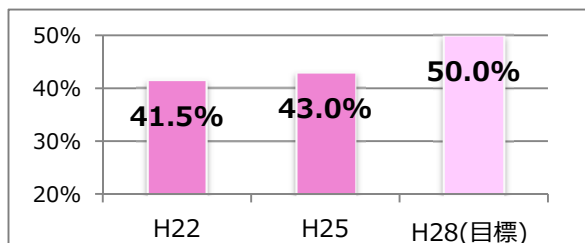
特に、企業では半数以上が飲料水を備蓄しておらず、さらなる備蓄啓発が必要です。



出典：平成 27 年度 災害時の備蓄等に関する「ヨコハマ e アンケート」

## ◆乳がん検診の受診率

横浜市では、横浜市民の乳がん検診受診率の目標を「平成 28 年に 50%」としています。平成 25 年の調査で 43%であり、受診率向上に向けて取組を進めています。



出典：平成 22 年、平成 25 年「国民生活基礎調査」(3年ごとに実施)

お問合せ先

水道局総務課長 山口 俊宏 045-633-0102 (ピンクリボン缶に関すること)  
健康福祉局保健事業課事業推進担当課長 船山 和志 045-671-3930 (がん検診事業に関すること)